



モジュール・フォーラム ～モジュールテーマ責任者、 モジュールⅠ&Ⅱ科目責任者への調査から～

大学教育イノベーションセンター 岡田佳子
2014.3.17(木)

1

テーマ責任者の回答から



2

モジュール名	アクティブラーニングに向けたモジュール全体での工夫
安全で安心できる社会	グループワークが苦手でなかなか話し合いにならなかつたので、ワークショップ形式に途中から変更した。何かワークをするということではできていたかと思う。 科目毎にアクティブラーニングの工夫をしていると思うが、講義に関して今年度は相互連絡を取っていない。私が担当した科目は昨年の状況を踏まえ、クリッカーの効率的な使い方(出席、質問、理解度、演習)とグループ発表までのスケジュールを変更した。
現代経済と企業活動	専門外の受講生に興味を喚起させること。 各講義担当者に任せました。
コミュニケーション実践学	各教員の間で実践を紹介しあい、とくにモジュールⅡに重点をおいて、グループワークの課題を工夫しアクティブラーニングの充実を目指した。
核兵器のない世界を目指して	グループディスカッション、リアクションペーパー、プレゼンテーション、ピアレビュー等の導入について、数回意見調整を行い、それぞれの科目における状況についても情報交換を行った。
安全で安心できる社会	個別の先生がやられてある。

3

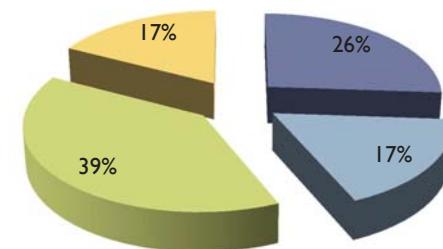
モジュール	アクティブラーニングに向けたモジュール全体での工夫
教育と社会	可能な授業でグループワーク・プレゼンテーション等の導入学生の意見表出の機会を増やすこと
現代の教養	特記事項なし。
現代経済と企業活動	モジュールⅠの3科目の担当者で、どの程度まで授業への学生参加を進めるかパターンを大雑把に決めて授業に対応した。
(夜間)安全で安心できる社会	アクティブラーニングの実践を個人での試行に委ねたため、モジュール全体としての工夫は行わなかった。
環境問題を考える	グループによる事前の予習により、発表形式の授業を実施した。全体で使用する教科書を担当者で作成し、全体の流れが把握出来るように工夫した。毎回レポートを課し、理解度を把握し、次の講義を組み立てた。
先進医学と現代社会	学生に発表してもらった。
生命と薬	薬学部は小さい学部であり、学部全体でできるだけ情報共有できるように、モジュールについての学部FDを開催し、現状報告、事例報告、問題点の共有、LACSについて、学生のメンタル面などを半日かけて議論した。
環境問題を考える	受講生に対して、以前よりさらに理解出来ているかを問い合わせる工夫をした。

4

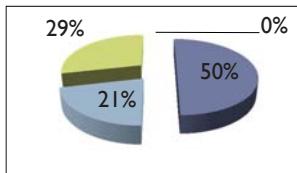
モジュール	アクティブラーニングに向けたモジュール全体での工夫
情報社会とコンピューティング	1年生の後期および2年生の前期に、テーマ選択者全員に電子書籍Readerを貸与して、普通教室では授業資料の閲覧やアンケートへの回答等に、端末室ではセカンドモニタとして、また授業時間外においても自由に利用させた。
数理と自然科学のススメ	授業の活性化を促すとともに受講者の理解度を把握するために、クリックを利用できる環境を整えた。数理的な概念はじっくりと時間をかけて考え、実際に自分で実例を計算してみることで理解が深まることが多いため、授業の中に個別演習を組み込むように調整した。自然科学系の科目では、映像・教材などで実例を提示する工夫を取り込むよう調整した。
心身の健康と生命	スクラッチカードを用いた試験など
環境問題を考える	アクティブラーニングに向けて学部で勉強会(FD)を行った。
(夜間)安全で安心できる社会	アクティブラーニングの実践を個人での試行に委ねたため、モジュール全体としての工夫は行わなかった。
環境問題を考える	グループによる事前の予習により、発表形式の授業を実施した。全体で使用する教科書を担当者で作成し、全体の流れが把握出来るように工夫した。毎回レポートを課し、理解度を把握し、次の講義を組み立てた。

5

教員間の連携・調整



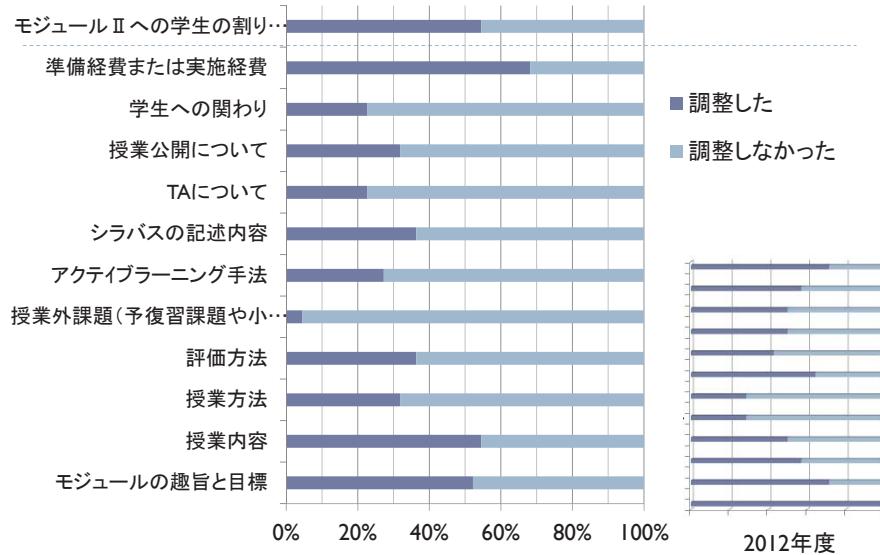
- 数回会って調整した
- 1~2回会って調整した
- メールで調整した
- 調整しなかった



2012年度

6

調整事項



7

(その他の調整事項)

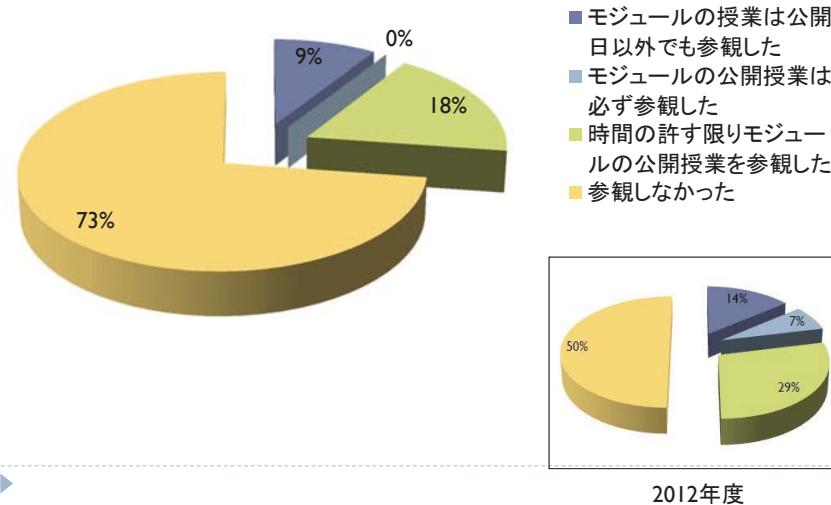
＜生命と薬＞
モジュールが始まる前に学部FDの形で情報共有をした。細かいところはメールで調整、情報共有を行った。

＜情報社会とコンピューティング＞
第2クールのモジュールⅠ科目では第1クールでの実践を踏まえて改善を行っていた。

＜教育と社会＞
12月に責任者を引き継いだため、前任者が調整済のものも多いと思われる。ただし、一部教員とは必要に応じて調整を行った。

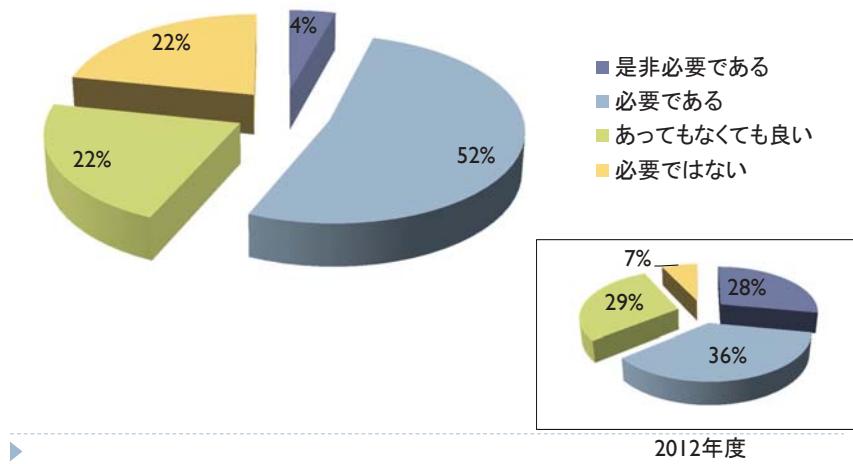
8

授業公開について



9

テーマ責任者の必要性



10

テーマ責任者が「必要ではない」理由

モジュール導入以前の内容・進め方とあまりかわらないから。
<現代経済と企業活動>

当初、テーマ責任者が置かれたときと、実際に始まってからでは、権限や内容が変わっており、事務的な業務で済むため<安全で安心できる社会>

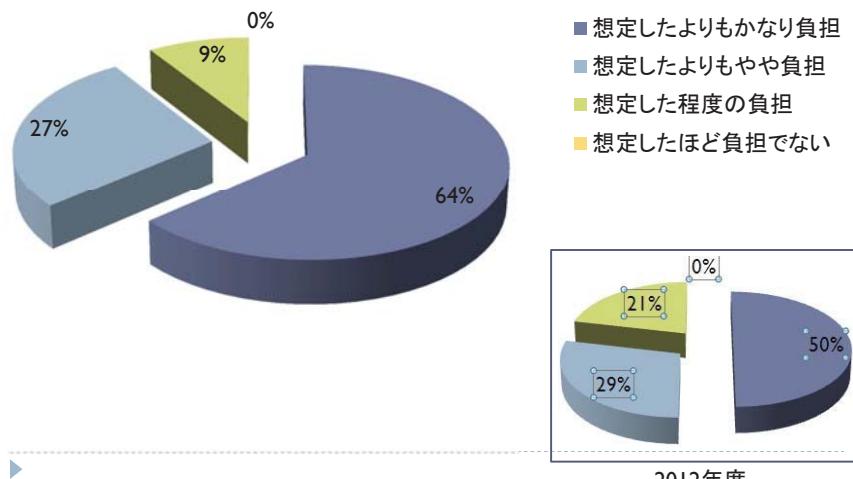
事務室から各教員への直接連絡の方が結果として効率的
<現代経済と企業活動>

事務局から授業担当者へ直接アプローチした方が正確で効率的
<現代の教養>

担当者が変更になるとその度に方針が変わるために
<グローバル社会へのパスポート>

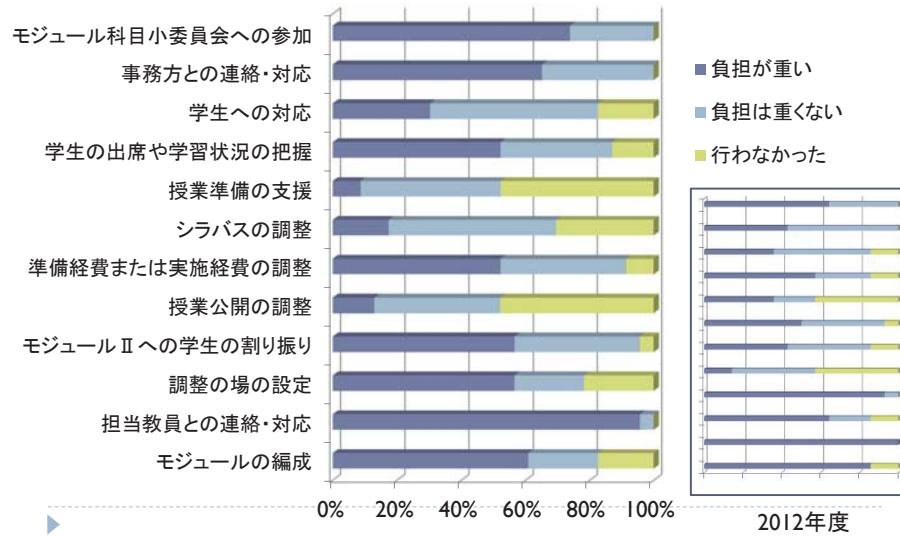
12月に責任者を引き継いだため、前任者がかなりの負担を引き受けてくださっていた。<教育と社会>

責任者の業務負担



12

負担の度合い



13

2012年度

(その他の負担)

薬学部では前任者によってローテーションや分担が決められており、それに沿って編成を組んでいる。大学院生を指導していない教官はTAを雇用しにくいため、SA雇用について調整を行っている。
<生命と薬>

担当教員(科目責任者)が複数部局混合の場合、機能しない。複数のテーマのテーマ責任者やファシリティナーになると、負担が過重すぎ調整機能を果たせない。
<現代経済と企業活動>

12月に責任者を引き継いだため、前任者がかなりの負担を引き受けてくださっていた。
<教育と社会>

委員会が授業やほかの会議でほとんど出席できないため、どのような考えで、進んでいるのかが代理の報告ではほとんどわからない。そのため、業務の依頼があつても、何のためかなどが良くわからず、それをさらに依頼することが非常に難しい。
<安全で安心できる社会>

「想定した程度の負担」にチェックを入れたのは、負担が軽いということを意味するのではなく、初めから負担が過度に重いと考えており、その想定通りの負担だったという意味である。
<安全で安心できる社会>

14

モジュール	現時点での課題
現代経済と企業活動	<ul style="list-style-type: none"> ・テーマ責任者は不要。部局単位の調整と教養教育事務室からの直接連絡により対応をお願いしたい。担当教員(科目責任者)が複数部局混合の場合、事務的な調整はテーマ責任者を通じず自學部の学務係や教養教育事務室経由で行われており、テーマ責任者の必要性を感じない。 ・「体系的・定型的な知識伝授」を目的に加えることが望ましい。 ・受講生(教養ゼミナール)で文教での様子をきくと、とても評判が悪いので、モジュール導入前に戻すべきと考えます。
グローバル社会へのパスポート	担当が固定化するのか毎年変更するのか、モジュールに任せるのは大学として好ましいとは思えない。
ことばと文化	学生の意欲喚起と学習習慣の形成
コミュニケーション実践学	同じ学生群を対象にしていることから、より担当教員間の連携を密にして、目標や評価の在り方を共有する必要がある。
核兵器のない世界を目指して	RECNAの場合、ほとんどの担当教員同士が頻繁に顔を合わせ、普段から様々な意見交換を行っているので、あまり不都合を感じることはなかった。来年度以降は、多文化社会学部の教員も参加するので、また少し調整を検討しなければならないと思われる。
現代の教養	芸術系科目での受講者数制限

15

モジュール	現時点での課題
安全で安心できる社会	<p>現時点では、モジュール科目的取りまとめをする意味があまり見えない。モジュール内容ではなく、アクティブラーニングなど方法でのことについて、モジュール責任者が負担を負うことは、違うと思う。また、各モジュールの基本的な内容を担当者が担うもので、現在しているような具体的なところは、行わないことで始まったと思う。</p>
安全で安心できる社会	<p>全体の受講者が少ないのでモジュールⅡでは受講者が少なく(特に2年次開講科目)アクティブラーニングにならないとの意見もあり、科目的選択肢があつても学生は早く受講したいのでモジュールの科目数を減らしてもよいと思う。他のモジュールを選択する機会もあってよい。</p>
教育と社会	<p>授業内容:教員免許状・授業内容との兼ね合いで、どこまでアクティブラーニングにしてよいのか、できるのか、迷っている。 事務:テーマ責任者経由で科目責任者等へ連絡・依頼をすることが多い。事務の方々には大変お世話になり、また、しかたないものもあるが、負担を感じたのはたしか。モジュールⅡの学生の割り振りをテーマ責任者が行うというシステムには少々びっくりした。</p>
現代経済と企業活動	<p>想定した以上に学生の遅刻が多い。また、遅刻の程度がひどく90分の授業で60分~80分遅れて来る者が少なくなかった。そのため、その日のテーマをよく理解せず答える者も多かった。欠席も多い。多くの学生の発声が細くて数メール離れると発言が聞き取れない。学生同士でのディスカッションに支障をきたす大きな原因であった。</p>

16

モジュール	現時点での課題
安全で安心できる社会(夜間)	<ul style="list-style-type: none"> WGでの作業の透明性の欠如 /理念と実態が乖離している。 負担論が先行...教員により内容に大きな差がある。 テーマ内での内容調整がしっかり行われているテーマが少ない。 学生にとって科目選択の幅が小さい。学部教員団が設定するテーマを、その学部の学生が受講できない。・コミュニケーションが苦手な学生への対応。 SAの採用が認められていない。・テーマ責任者の職務範囲が広すぎる ・ローテーションで回していくところでは、振り返りができるおらず、改善につながらない。・再履修者はテーマに関係なく科目選択ができるというモジュールを自己否定するようなやり方。
先進医学と現代社会	効果評価
生命と薬	欠席者や課題を提出しない学生への対応に苦慮する。第3志望だからと言ってその学生へ特別な配慮はできないので、学生が相談しやすい窓口を設けて何らかの対応をしてやれないか。 大学院生を持たない教官がSAを活用できるシステムを作つてほしい。一人で15回分担する教官は、非常に負担が大きい。
安全で安心できる社会	多学部の教員からなるので、講義担当の調整が困難である。医歯薬および経済は各グループ内で調整しているが、情報がうまく伝わってこない。安全安心は3つのモジュールが同時に進行しているので、共通部分をうまく管理してもらいたい。
環境問題を考える	4月始めの新入生への教員によるモジュール紹介は必要性が特にない。

17

モジュール	現時点での課題
心身の健康と生命	学生にはモジュールの枠にとらわれない自由な科目的選択が許されることが望ましいと考える。
環境問題を考える	責任者の過大な責務
数理と自然科学のススメ	受講者が少ないため、多くの学生に選んでもらえるようなモジュールテーマとしたい。
人の暮らしと海洋生物資源	受講生のモチベーションの低さ。担当教員の負担感が大きいこと。
情報社会とコンピューティング	モジュールⅠ科目: 再履修が困難であること モジュールⅡ科目: 後期開講の科目を前期開講前に決めなくてはならず、前期科目の単位を修得できなかった場合でも追加で履修できないこと
数理と自然科学のススメ	文系学部と理系学部が混在し、学習意欲あるいは予備知識に大きな差がある。また、同一学部の中でも、学習意欲あるいは予備知識に大きな差がある。より学習効果を高めるためには、受講者の編成方法を再考すべきである。積み上げ式の自然科学系の授業では、既習・未習の違いは決定的である。

18

モジュールⅠ科目責任者の回答から



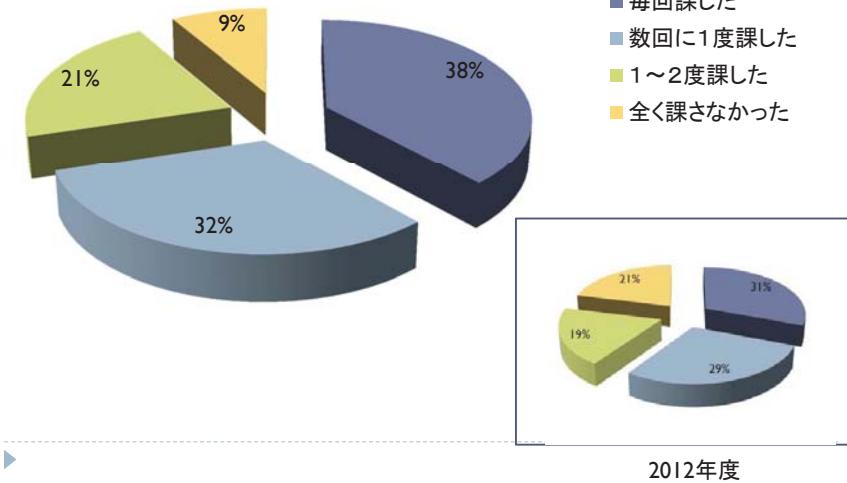
科目名	アクティブラーニングに向けたモジュール全体での工夫
数理と自然科学のススメ (数学の考え方)	数学の思考能力を養うための問題を多数用意し、グループ討論、発表を複数回(各グループ5, 6回程度)行った。毎回の授業の準備、討論、発表等で学んだことを各回、A4用紙1枚(授業の振り返りシート)にまとめて提出させ、添削して返却した。発表に対する受講者による相互評価(4項目、5段階)を取り入れ、成績評価にも30%反映させた。
ビギナーのための有機化学	高校レベルの基礎的な講義と並行して、学生各自に調査テーマを提出させ、そのテーマについて議論させ分類させ、最終的に7つのテーマにしぶりグループ分けして調査プレゼンさせた。
歯の進化と人類学	班ごとに動物の頭骨標本を割り当てて、その歯の形態から動物種を鑑別するための議論をして、班内の意見をまとめさせるようにしている。講義の最期に理解度小テストを行い、講義への集中度を保つようにしている。
環境・生活と化学	講義を15~20分ごとに区切り、プレゼンテーション、ディスカッション、調査などに取り組むことで、飽きさせないようにした。グループメンバーを固定し、互いに意見を出しやすい雰囲気になるようにした。

19

20

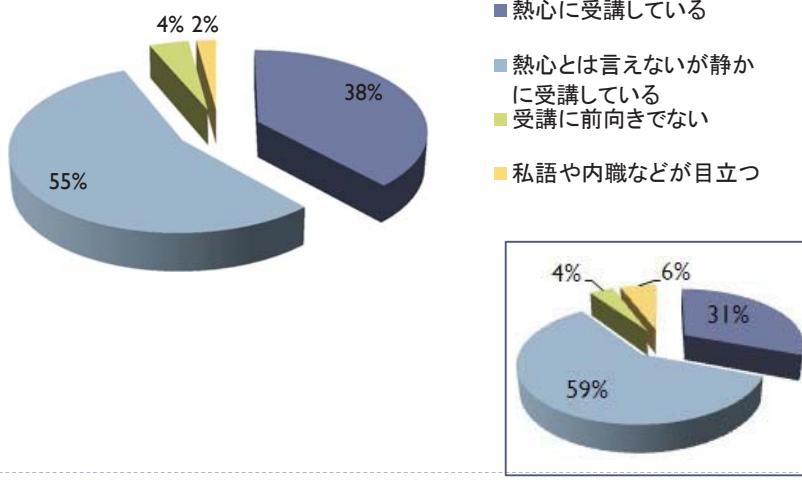
科目名	アクティブラーニングに向けたモジュール全体での工夫
国際社会と平和	毎回リアクションペーパーを活用し、必要に応じて教員から返信もした。基本的に全受講生に一度は教員から返信があったはずである。また、前半を講義スタイル、後半をグループワークとプレゼンに充て、グループの編成においては、それまでの各学生のコメントや興味分野を勘案し、できるだけ議論が集約するように工夫した。
教育と社会Ⅰ「教育心理」	毎講義最後の5分を用いて、「本日の講義で重要と思った点」についての記述を求め、次の時間の最初の5分の時間帯を用いて何名かをピックアップし、講評を行った。テーマの終了時点での「確認テスト」を実施しフィードバックを行った。
経済政策と公共部門	特定の最高裁判例を解釈できるレベルで、経済学等の基礎知識を定着させることができるように、判例集をも利用することとした。
コミュニケーションの比較文化	具体的な経験をもとにしながらも想像力が必要になってくる取組課題を設定することに心をくだいた。具体的には、共在感覚の比較文化というテーマについて5~6人のグループで討論し、その内容を発表させる形式でアクティブラーニングをおこなった。各グループの採点は聴衆の学生全員でおこなった。また、2~3人のグループになり、会話の格率から逸脱している会話の転記を用いて会話劇を演じ、ターンテкиングと関連性の概念について学習した。 ²¹

授業外課題



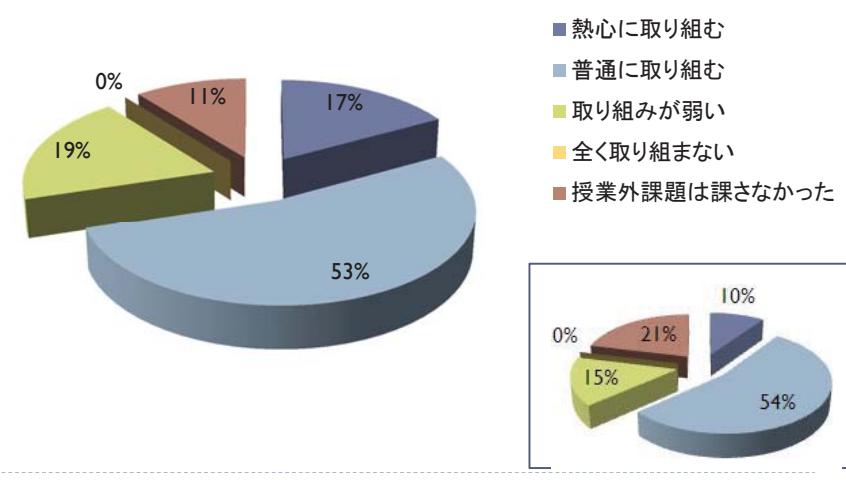
22

受講生の受講態度



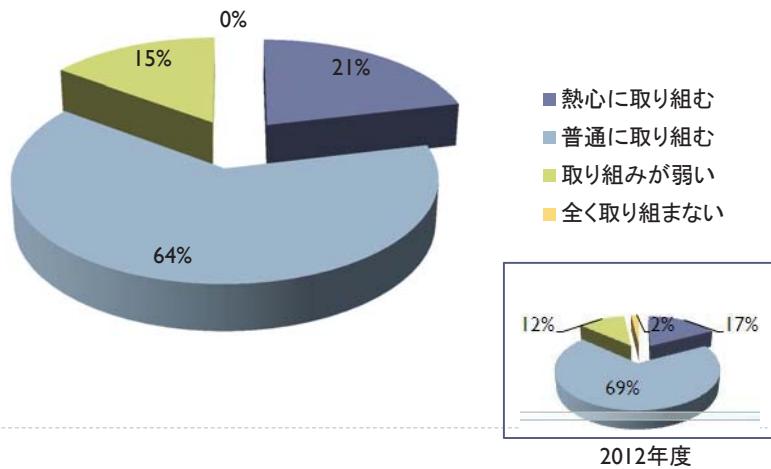
23

受講生の授業外課題への取り組み



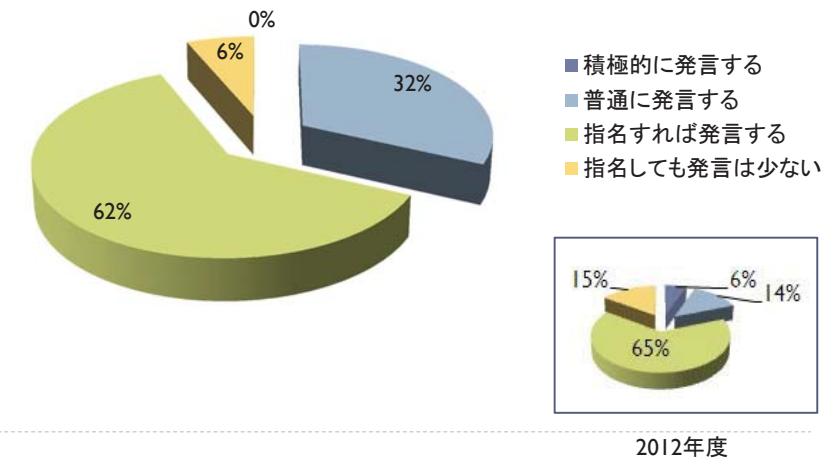
24

受講生の授業での活動



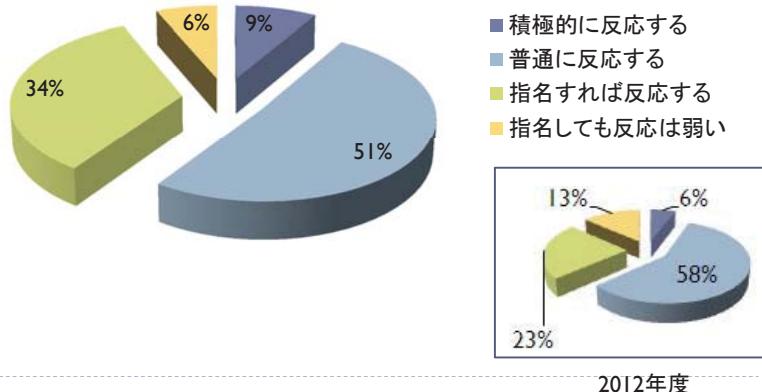
25

授業での発言



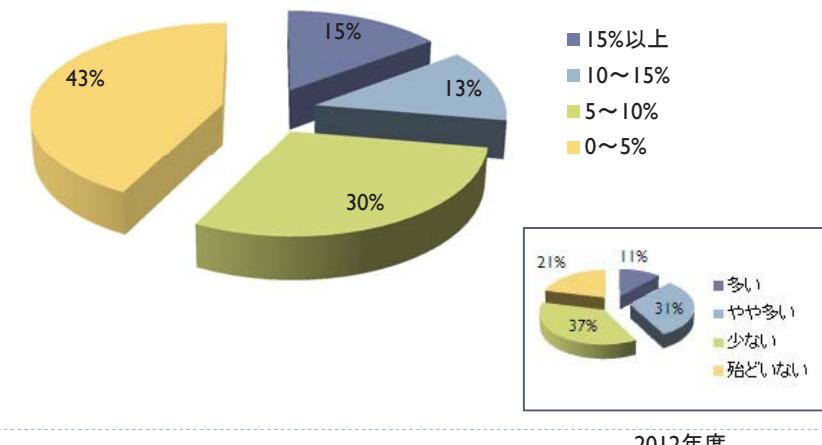
26

教員の働きかけに対して



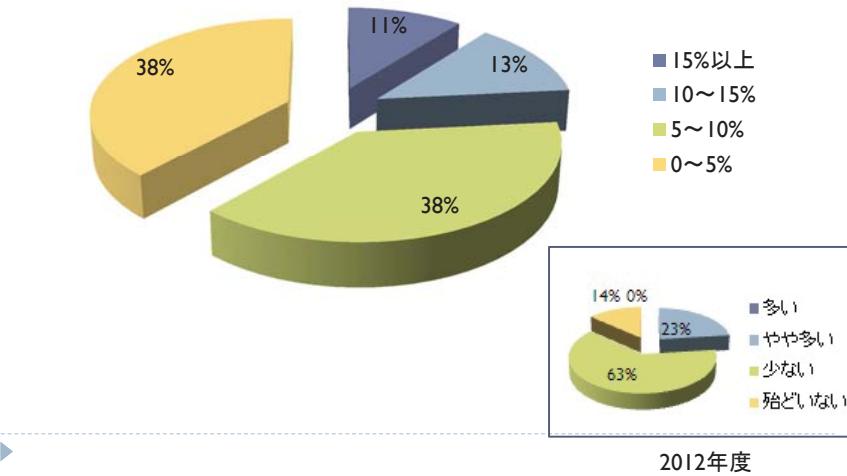
27

遅刻者(登録者数に対する割合)



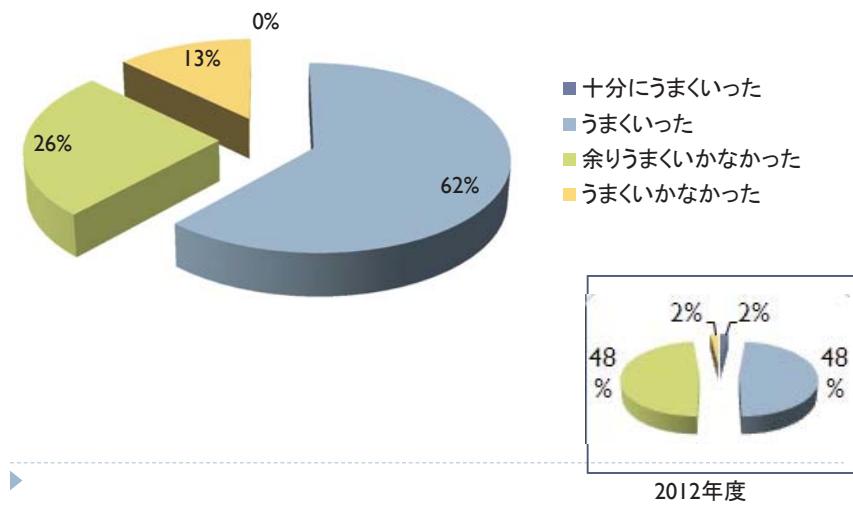
28

欠席者(登録者数に対する割合)



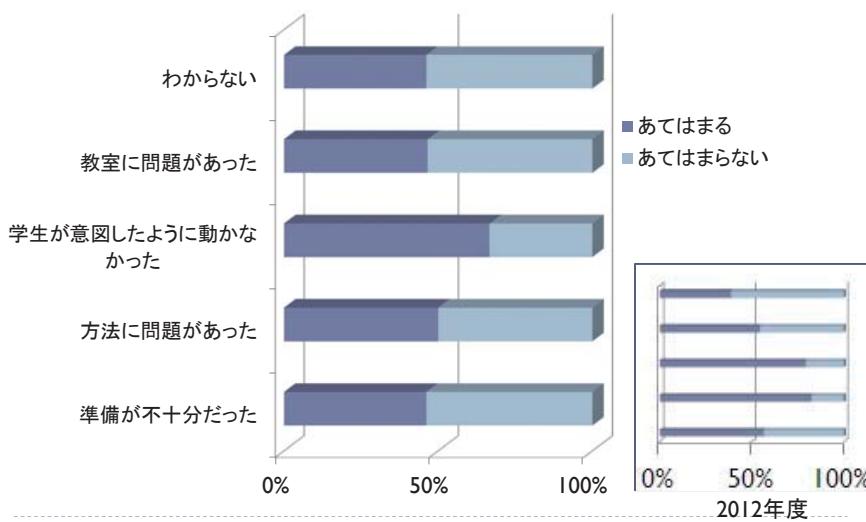
29

アクティブラーニングについて



30

アクティブラーニングが「余りうまくいかなかつた」「うまくいかなかつた」の原因



31

(その他の原因1：人文・社会系)

文系と理系が混在し高校で習得した知識大きく異なるため、講義の組み立てに非常に戸惑った。当初から欠席が多くその対応にも大変苦慮した。

この授業を希望しなかったのに割り当てられてしまったという学生が相当数いたため、全体の雰囲気を損ねていた。・教室のワイヤレスマイクの作動不要により、教壇から離れることができずアクティブラーニング遂行上大きな支障となった。

教員の教育機器類への習熟が必要である。

2クール目ということもあり、初回のクールで出た課題等を検討し、前回よりはスムーズにできたと思います。ただ、意見交換が活発に行われるグループとそうでないグループの差もみられたりしたので、グループの作り方(固定化or流動化)や問題提起の仕方など、より充実した活動となるよう検討したいと思います。

アクティブラーニングは行っていない。学生の授業への参加を重視した、教員・学生の双方向性をもつ普通の講義を行った。授業としてはうまくいったといえるかもしれない。

32

(その他の原因2：自然・生命系科目)

ほぼ毎回テキストの購読とペーパーの提出を要求し、ペーパーはほとんどの学生がきちんと準備てきていたが、それを講義中に積極的に発表しようとする学生は少なく、また、特定の学生に限られていた。(指名すれば、ほとんどの学生は答えた)

グループディスカッションを行うようなアクティブラーニングを行うには、授業時間が短すぎる。休憩をはさんで、2コマ連続の方が良い。

取り組みや授業外課題を熱心に行っている学生もいるのだが、上っ面の調べ学習を行っているものも多い。

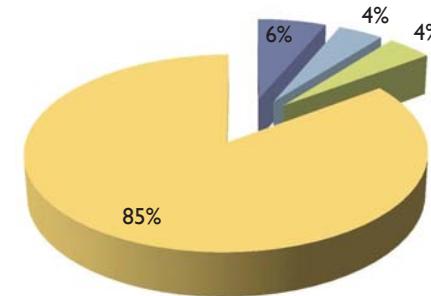
今回は問題を多数用意し、受講者には好きな問題を選択して解答、討論してもらう方式にし、講義は一切行わなかった。学生に自主的に取り組んでもらうのが目的であったが、学部間で取り組みに差があった。最終レポートを読むと、数学の問題を解くのにいろんな考え方があることに気づいた、という感想がかなりあり、授業の目的はある程度達成されたと思う。ただ、今年はこのやり方を初めて行ったので、試行錯誤も多く、工夫の余地がかなりある。

一校時であること、また学部学科の構成も関係するかもしれない。

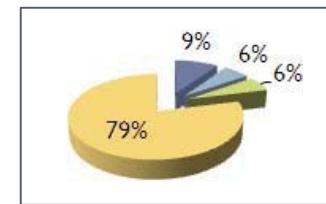
アクティブラーニングは行なっていない。

33

クリッカーについて



- よく使った
- ある程度使った
- 少しだけ使った
- 使わなかった



2012年度

34

クリッカーの貸出システムや使い勝手などの感想・意見1

クリッカーの数が足りず、環境科学部のクリッカーを使用したが、教養教育で使用できるクリッカーを増やすことが必要と思われる。

自部署のクリッカーを利用したので、貸出システムは利用していません。

毎回の質問に対して出席者の70-80%しか応答がなかった。機械あるいは受講生の問題かについて検討したが、後者の可能性(=受講生が反応しない)が高い。

水産学部のものを使用した。現時点では、使用者が少ないため、重複することもなく、使い勝手は悪くないです。

学部所有のクリッカーを使用した。

35

クリッckerの貸出システムや使い勝手などの感想・意見2

教養で用意しているのは、他とバッティングしていて満足に使えなかった。

教養で用意されているセットは1つしかなく、他と重複した。

クリッckerの数が少なく、事前に利用する日時を同一時間帯で講義する先生方と調整しなければなりませんでした。クリッckerの数を増やし、もっと気軽に利用できると良いと感じました。

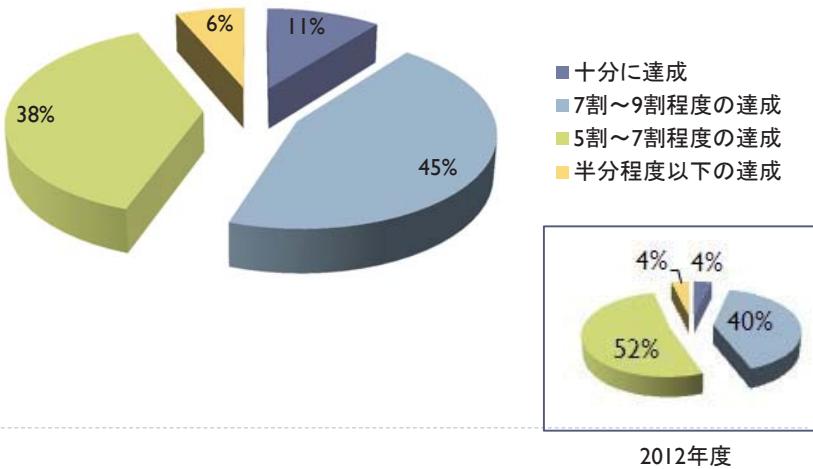
4部局の教員が教えるので、教養事務室に、もう少し、常備してほしい。

クリッckerを使うことだけではアクティブにはならない。

Macでは出来なかつたため不便

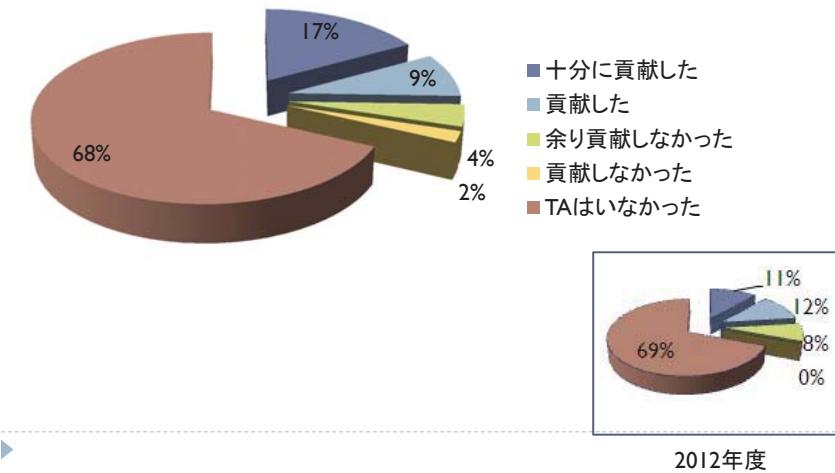
36

授業の目標達成について



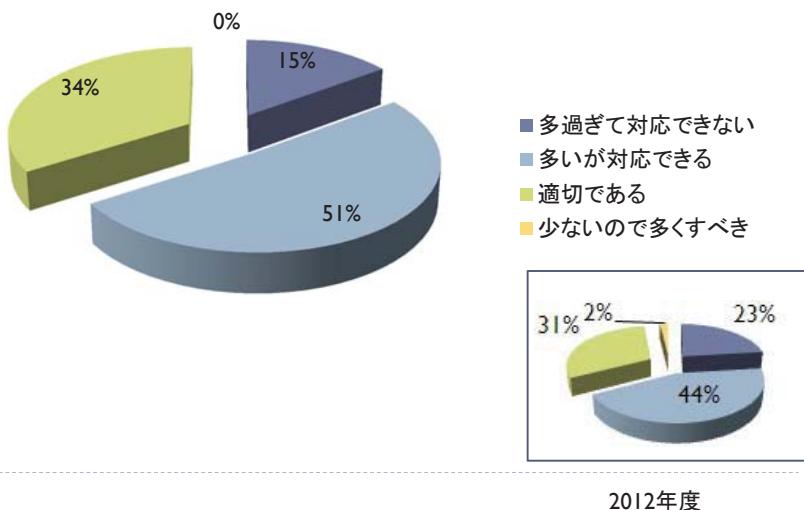
37

TAの貢献について



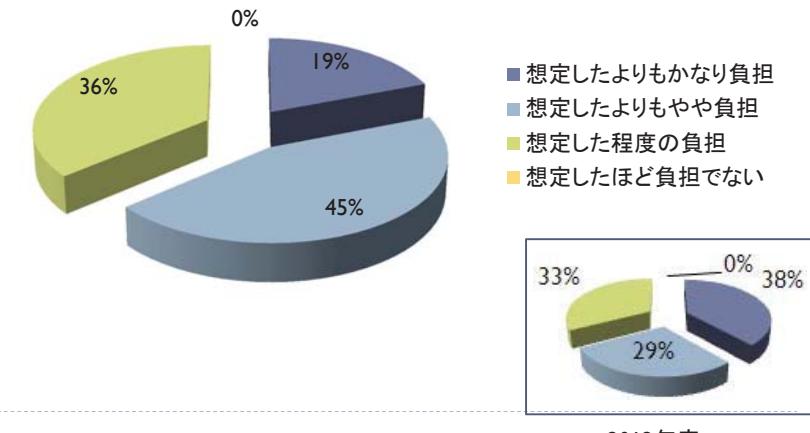
38

受講生数について



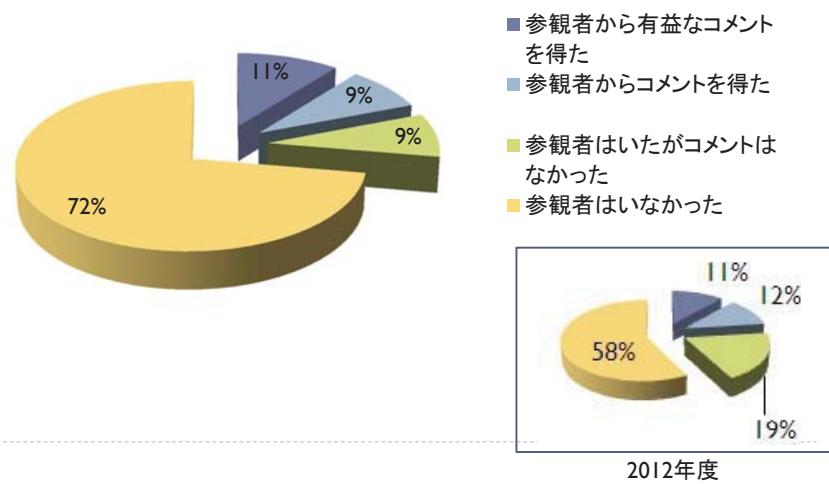
39

授業準備の負担について



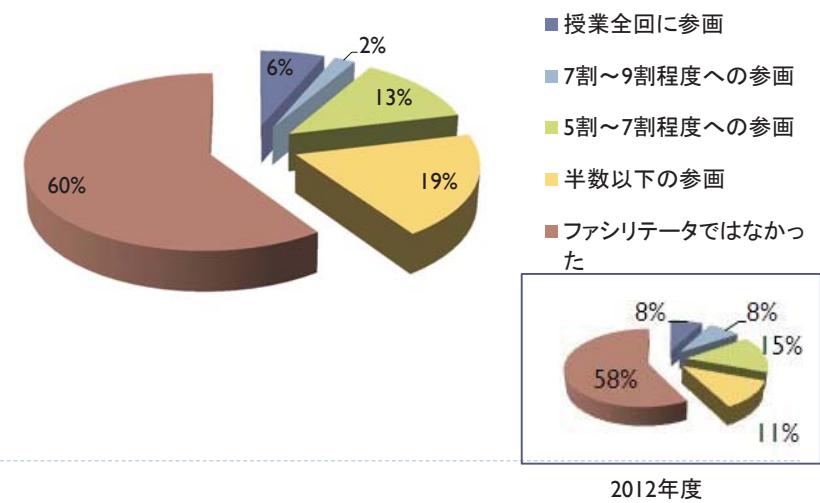
40

授業公開について



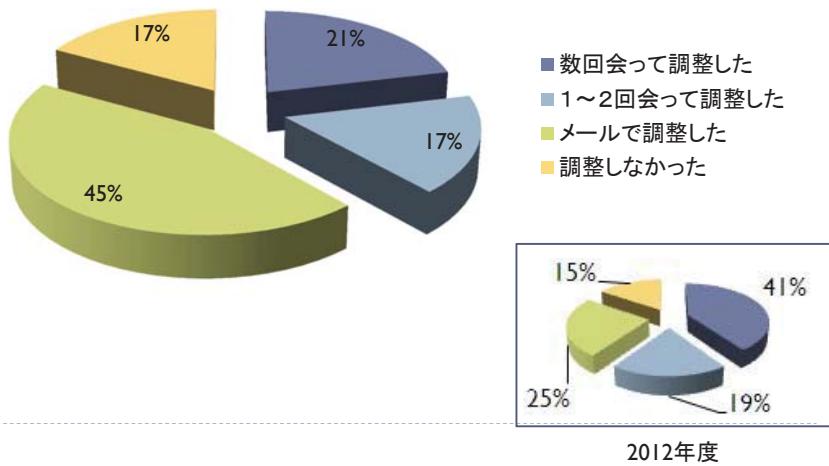
41

ファシリテータとしての授業への参画



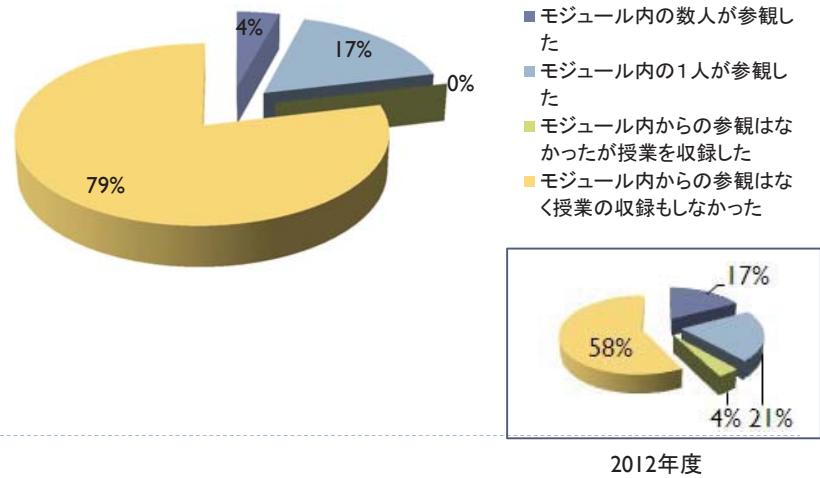
42

教員間の連絡・調整



43

授業公開について



44

科目名	現時点での課題
ストレスと健康	1. 科目内および科目間での意見交換をもっと行き、科目相互の有機的な繋がりを目指したい。2. 基礎力の強化とともに自己学習(生涯学習)の意義や方法についても対応した授業にしたい。
数理と自然科学のススメ(数学の考え方)	自主性を重んじるため、今年は問題を強制することをしなかったが、 学生間で取り組む態度に差がある 。次回は各回の範囲を少し限定して、一部講義を交える方がよいかもしれない。与えた問題からいろいろな方向へ発展した問題を考えてもらう(問題発見)のが当初の目的であったが、あまりうまくいかなかった。
ビギナーのための有機化学	学生のモチベーションに差があった 。講義の構成にも問題があったことは否めないが、ついて来ない(来ようともしない)学生(第3志望の学生?)への対応に戸惑い、困惑した。特に欠席者への対応にかなり苦慮した。高校で習得した知識が大きく異なる学生が混在するため、高校レベルの内容を話すことが多くなり、想定通り講義が進まないことがあった。
コミュニケーションの生物学	専門知識への関心が高くなる大学1年生に対して、 いかにして教養教育の重要性を納得させるかが最大の課題 。またLACSを利用して、受講者に対し学期中の現在評価を明示することで、学修意識(モチベーションあるいは危機感)を活性化したい。
物理の考え方	指示されないとやらない、指示されてもやらない、 霸気がない学生が多い と感じる。この2年、学生の考え方が変わってきていると思わざるをえない。

45

科目名	現時点での課題
都市環境を考える	百枚ものレスポンスペーパーへの対応には結構、時間を割かれる。勿論、かれらの質問や意見は、次の講義の冒頭、応えている。しかしながら、 学生の反応が昨年度に比べ、いま一歩の感がある 。講義者間でいま、話し合っているところです。
国際社会と平和	昨年度は初めてということで、すべての担当教員が、モジュールIの他の科目的講義をほとんど毎回参観したが、 今年は、二回目と言うことで、お互いに昨年から変更、改善した点を意見交換する程度で、参観まではしなかった 。
ジェンダーとことば	中途まではまったく失敗だと感じていたが、最後の段階で受講者の多くがそれぞれの潜在意識まで深く気づきの幅を広げて来た事に、感動すら覚えた。もう少し現在の形で進めてみたいと思う。
コミュニケーションの生物学	専門知識への関心が高くなる大学1年生に対して、 いかにして教養教育の重要性を納得させるかが最大の課題 。またLACSを利用して、受講者に対し学期中の現在評価を明示することで、学修意識(モチベーションあるいは危機感)を活性化したい。
教育と社会I 「教育心理」	教育機器類への習熟。
心とことば	モジュール内での連携をさらに図ることができれば、なぜこのモジュールなのか、このモジュールを受講することによりどのような知識や技術が身に着くのかがより学生に伝わりやすいのではないかと考えました。

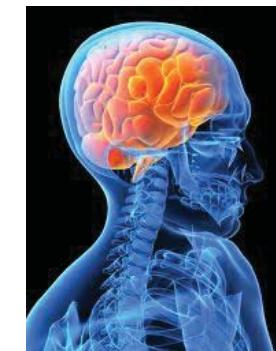
46

以上、モジュールI科目の
単純集計結果でした



47

モジュールII科目責任者の回答から



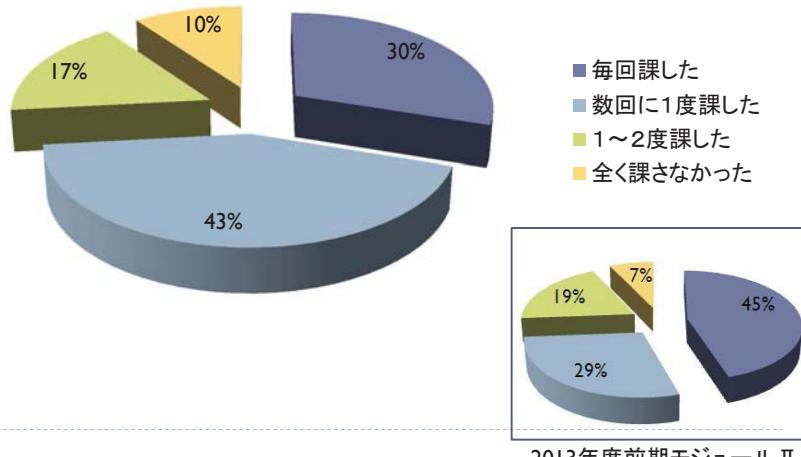
48

科目名	アクティブラーニングに向けたモジュール全体での工夫
医療現場の安全安心	①話しやすいようにグループ討論の組み分けを同じ学部のものとした。討論内容が医療的な場合には、医療系学部以外の学生には医療を受ける立場で討論するように促した。②7回位の講義の後でも、討論が盛り上がらないグループがあったので、授業後の課題を2名程度の学生が協力して書くことを促した。
生物からみた水産業	受講生全員にテーマを与え、調べた内容をA4用紙1枚にポスターに整理させた。講義2回分を割いてポスター発表会を実施した。発表者は他の学生あるいは教員、TA院生と議論を行わせた。
環境汚染物質のマネジメント(PBL)	毎回、質問やコメントを記入できるカードを配布した。調査内容を発表する機会を設けた。学生同士の議論の時間を設けた。実際の廃液処理施設を見学する機会を設けた。
電気の物理とその応用	テスタによるオームの法則、キルヒ霍ッフの法則の実験、コンデンサの過渡現象の実験、オシロスコープによるトランジスや交流電圧波形観測、ダイオード整流回路の波形観測、クリップモータの製作をおこなって学生と対話しながら講義を進めた。

49

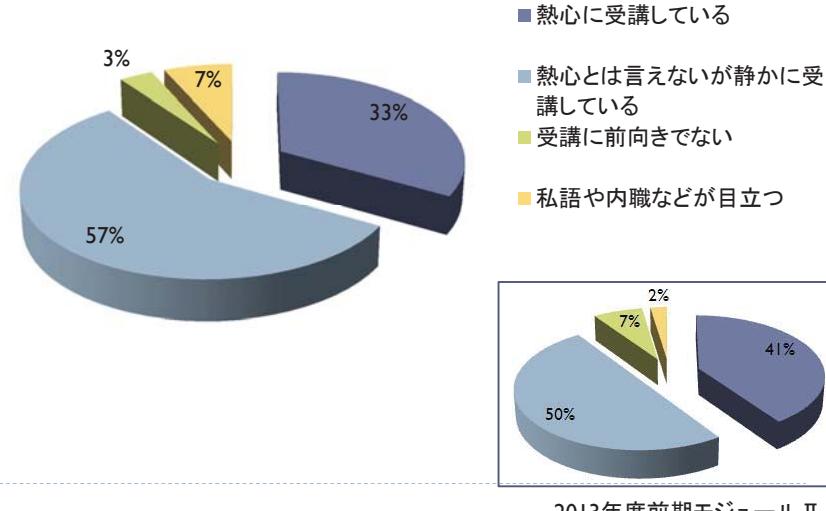
科目名	アクティブラーニングに向けたモジュール全体での工夫
地域社会と日本経済	学生の予備知識や理解度を確認するため講義中クリップカーを活用するとともに、各講義の最後に演習を行い理解を深めるよう務めた。加えて、講義への関心を高めるため国の方出先機関幹部による講演を設けた。
異文化コミュニケーション	①3、4人のグループを作り、国際結婚についての調査を行わせ、パワーポイント等で発表させた。②各グループ同士で、6つの議題についてディベートをさせた。
市民運動・NGOと核兵器廃絶	2回にわたり、少人数のグループによる調査・グループ発表の課題を出した。テーマを決め、全体での自由なディスカッションの機会を設けた。毎回の講義の最後にリアクションペーパーの形で、意見、感想、質問などを記述・提出させた。
企業の国際展開とグローバル人材育成	席はできるだけ前から埋めるように学生を指導した(前席3列に座った者には授業参加点を加点すると説明、別途出席管理簿を作成した)・授業時間内に必ずグループディスカッションを入れ、代表者に発表させた・学生の理解を促すために、毎回数人に質問し答えさせた・講義テーマ関連レポートを5回要求し、また小テストを3回行った・授業中に寝ている学生は、他の学生のモチベーションを下げるのを叩いて起こした・レポート未提出の学生をピックアップして最低3回はメールで警告、また授業終了前に出席確認して、その場で再度注意した 50

授業外課題



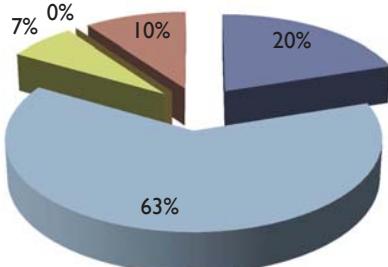
51

受講生の受講態度

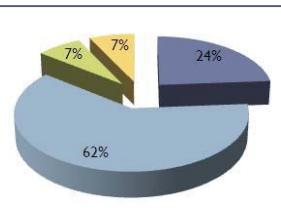


52

受講生の授業外課題への取り組み



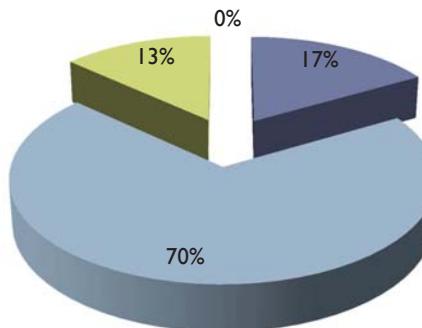
- 热心に取り組む
- 普通に取り組む
- 取り組みが弱い
- 全く取り組まない
- 授業外課題は課さなかった



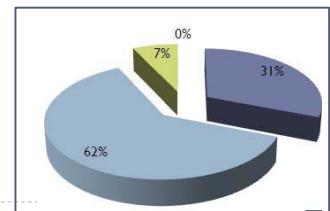
2013年度前期モジュールⅡ

53

受講生の授業での活動



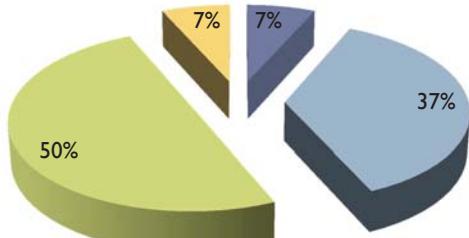
- 热心に取り組む
- 普通に取り組む
- 取り組みが弱い
- 全く取り組まない



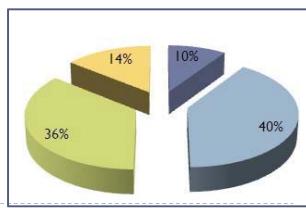
2013年度前期モジュールⅡ

54

授業での発言



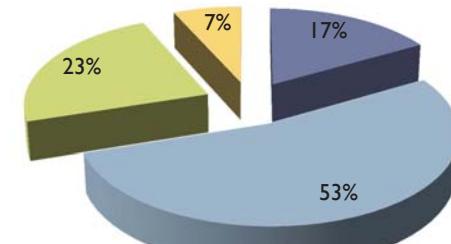
- 積極的に発言する
- 普通に発言する
- 指名すれば発言する
- 指名しても発言は少ない



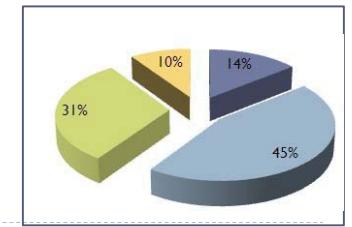
2013年度前期モジュールⅡ

55

教員の働きかけに対して



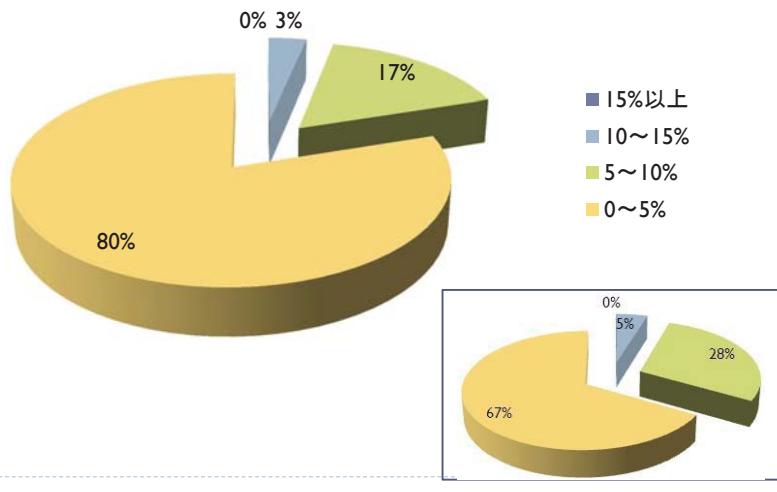
- 積極的に反応する
- 普通に反応する
- 指名すれば反応する
- 指名しても反応は弱い



2013年度前期モジュールⅡ

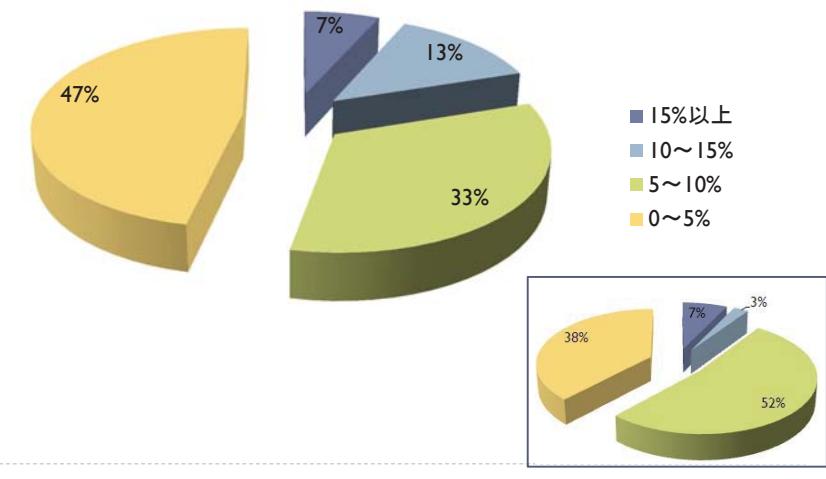
56

遅刻者(登録者数に対する割合)



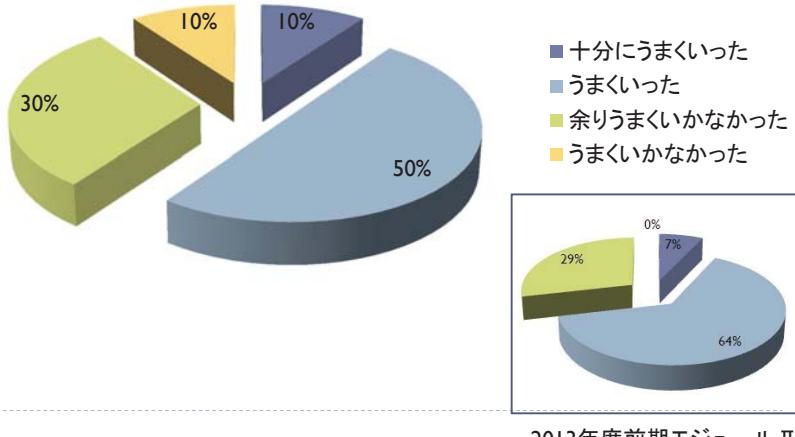
57

欠席者(登録者数に対する割合)



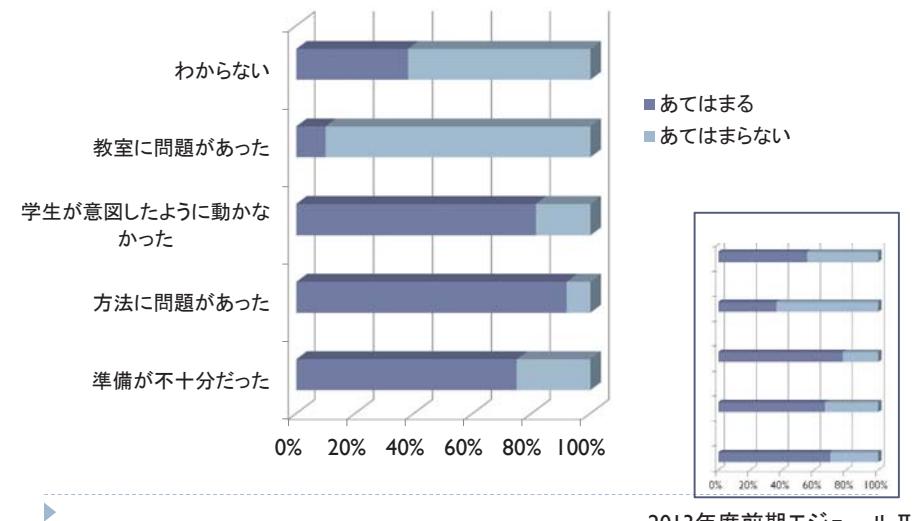
58

アクティブラーニングについて



59

アクティブラーニングが「あまりうまくいかなかつた」「うまくいかなかつた」の原因



60

その他の原因

教員としてはあまりうまくいかなかったと思っていたが、学生による授業評価では高い評価を得ていたことに驚きと安堵感を持っている。
＜医療現場の安全安心＞

講義の時間は限られているので、主にWebClass上でレポートの作成、提出やピアレビューを試みたが、非常勤講師の学外からのWebClassへのログインに支障が生じ、思うようにコメント等ができなかつただけなく、学生から提出されたレポートやピアレビューのコメントをファシリテーターがダウンロードして非常勤講師へ送信する等、負担が大きかった。
＜文学・芸術と核兵器＞

ディベートの時に学生たちは期待以上に積極的に自分の意見を述べていた。
＜異文化コミュニケーション＞

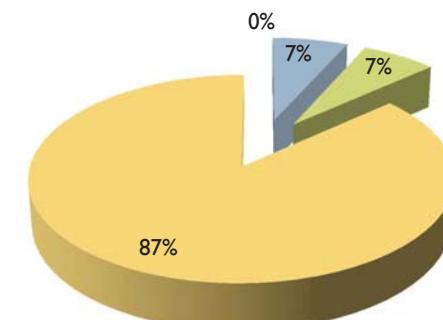
期待したほど学生からの積極的な発言はなかった。また、最後の講義の際に、学生と意見交換をしたが、この科目において、学生は総じてアクティブラーニングの導入に否定的であった。ある学生から「この科目は、その性格上、主に新しい知識を学ぶべき科目であり、同じモジュールの他の科目で積極的にアクティブラーニングを行い、知識を応用するような取り組みが望ましい」という発言があり、多くの学生が賛同していたように見受けられた。＜核軍縮の法と政治＞

思想学・思想史学の1年生の授業において、どのようにALを進めてよいか、考慮したもの、最後まで判然としなかった。＜環境思想＞

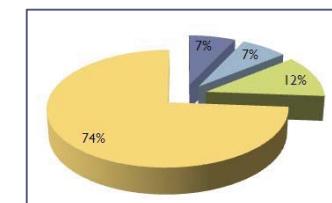
第2クールでは、クリッカーを積極的に活用して、授業の更なる活性化を図りたい。
＜自然を記述するための基礎数学＞

61

クリッカーについて



- よく使った
- ある程度使った
- 少しだけ使った
- 使わなかった



2013年度前期モジュールⅡ

62

クリッカーの貸出システムや使い勝手などの感想・意見1

貸出システムは適切。一方、クリッカーの数に限りがありクリッカーを使用する講義が2コマ続くと十分な対応ができなくなるため数に余裕をもたせることが必要だと思います＜地域社会と日本経済＞

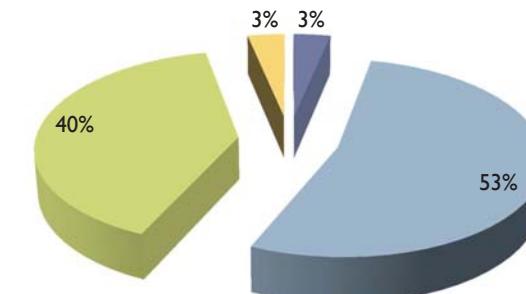
工学部で共同購入したクリッカーを使用した。
＜暮らしの中の物理科学＞

パワーポイント内に組み込んだら、クリッカーを使用するたびにパワーポイントが終了してしまい、非常に使いにくかった。
＜異文化コミュニケーション＞

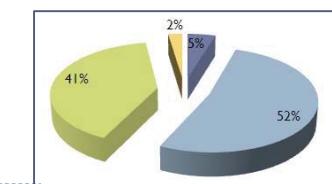
クリッckerを使うたびに、クリッckerの質問を入れていたパワーポイントがダウンしたので、1度しか使用しなかった。
＜異文化コミュニケーション＞

63

授業の目標達成について



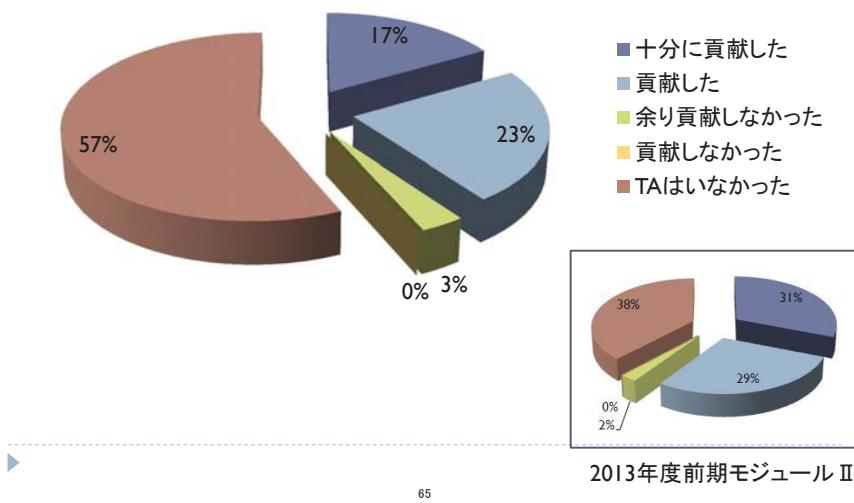
- 十分に達成
- 7割～9割程度の達成
- 5割～7割程度の達成
- 半分程度以下の達成



2013年度前期モジュールⅡ

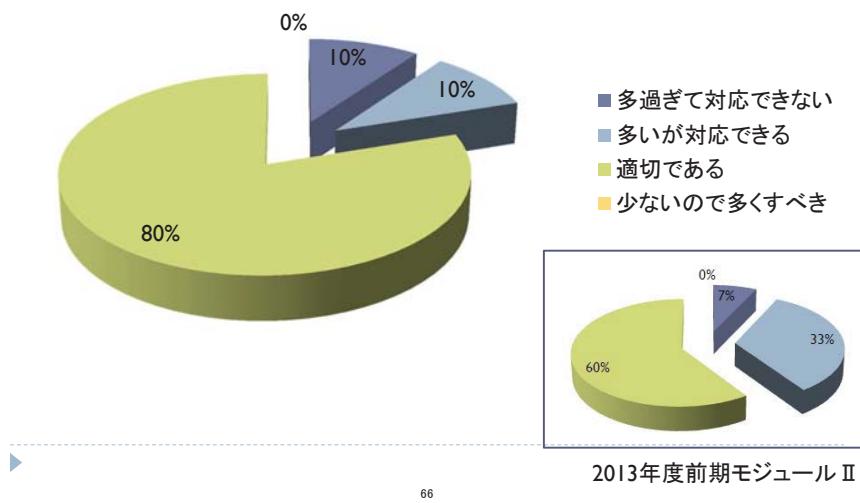
64

TAの貢献について



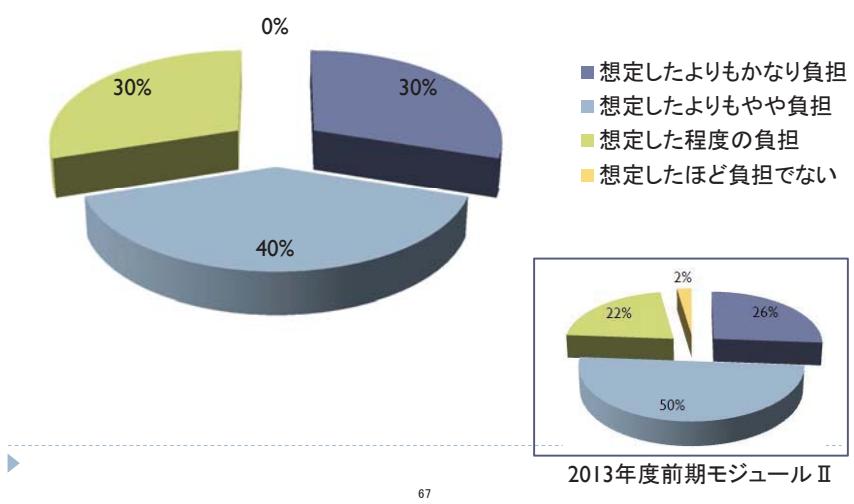
65

受講生数について



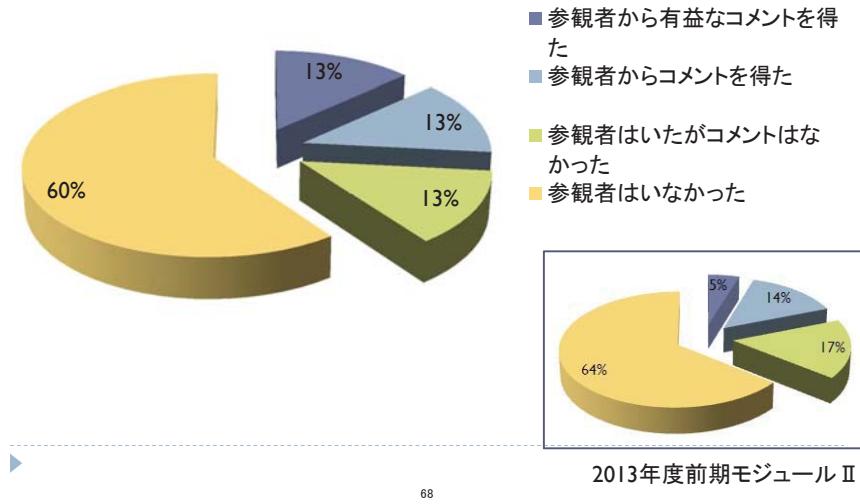
66

授業準備の負担について



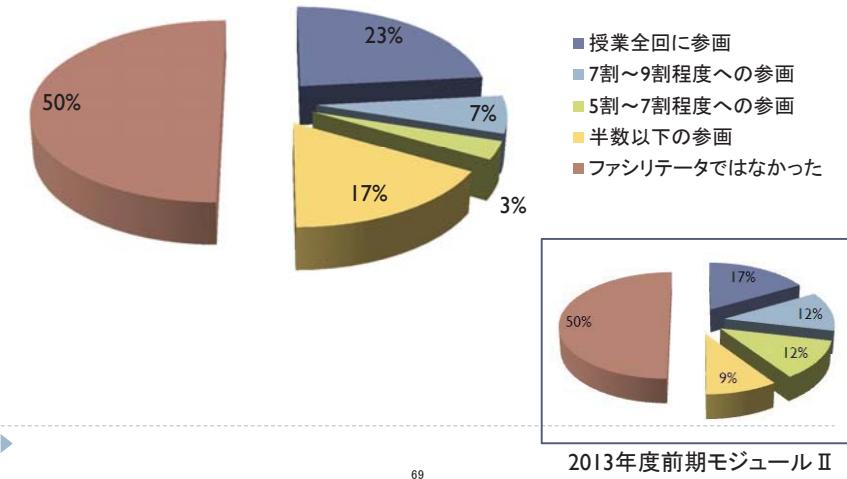
67

授業公開について



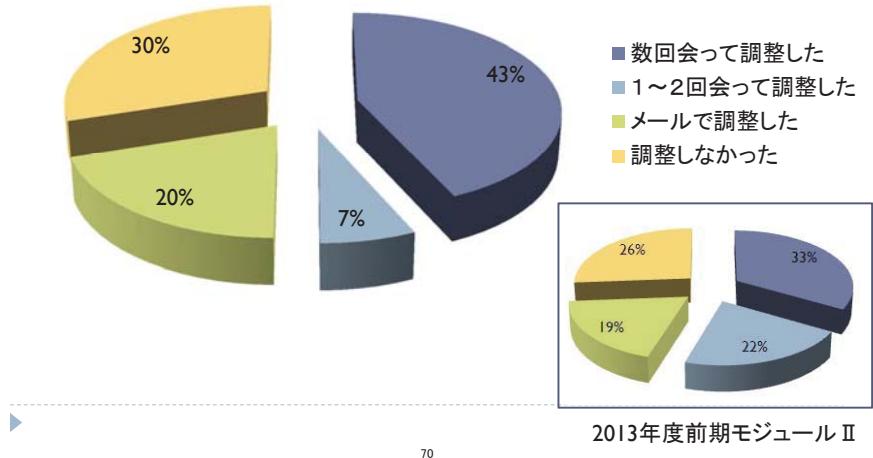
68

ファシリテータとしての授業への参画



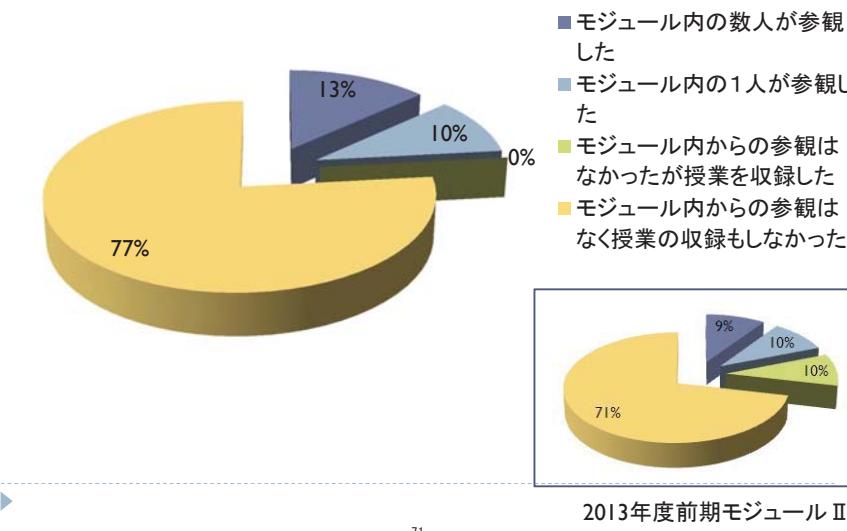
69

教員間の連絡・調整



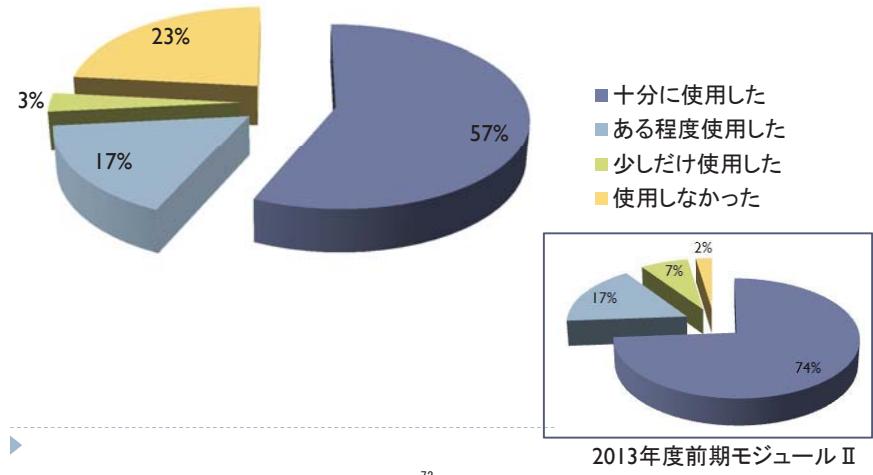
70

授業公開について



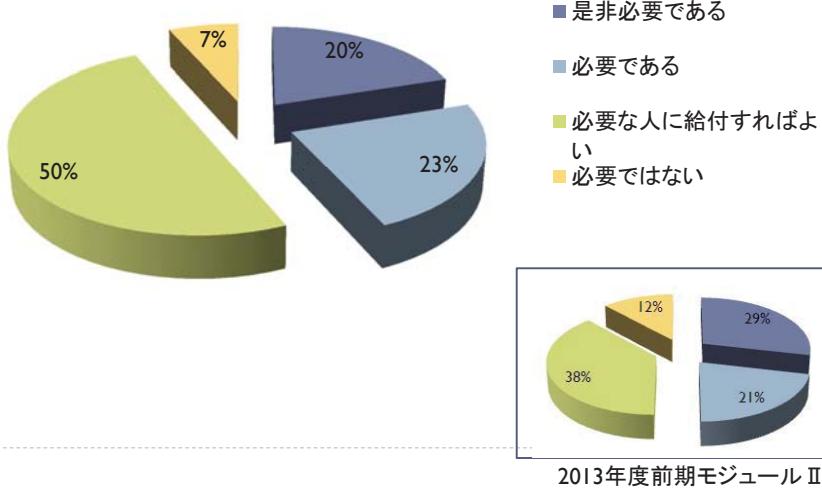
71

準備経費の使用



72

今後の準備経費について



73

科目名	現時点での課題
医療現場の安全安心	人前で話すことができない学生が多いように思う。授業後の個人的な質問にも全員に聞かせたい良い質問があり、その旨を話して学生を鼓舞するが、みんなの前で質問するには至っていない。
電気の物理とその応用	受講者が多くなると、実験をさせたり、実験して見せることが難しくなると思われる。
話題の先進医学	講師の負担が大きい。授業を受ける学部と行う講師の学部が異なるため、興味の対象が大きく異なり、マッチしない。
自然を記述するための基礎数学	理系学部と文系学部が混在しており、非常にやりにくかった。 学習意欲あるいは予備知識に大きな差がある 。より学習効果を高めるためには、既習・未習で分けるなど、受講者の編成方法を参考すべきである。
スポーツ医学	学生はモジュールの枠内で学ばされている感が強く、もっと自由にモジュールの枠を越えて、自らの意志で学びたい科目を選択させるべきと考える。
数と表現	数学的内容の扱いとアクティブラーニングの関わりについて、その展開のあり方が課題である。
疾病の回復を促進する薬	積極的に取り組む学生とそうでない学生に二極化する。

74

科目名	現時点での課題
国際社会と日本経済	講義以外の負担が多すぎる(講習会やアンケートなど)。モジュールにしたこと自体が、教養教育として学生が勉強したいこと、学生の関心を高めることの範囲を狭めているように思う。
企業の国際展開とグローバル人材育成	今回の受講者数は67名であったが、人数が多くてディスカッション後の発表の機会が全員に与えられなかつた。またグループ作りにも時間がかかった。 双方向型の授業は少人数が原則であり、受講者数は多くとも25~30名で行うべきである 。67名の課題のレポート(5回)をメールで毎回チェックし、取り出し、読んでコメントして返却する、未提出者に督促するのに相当な時間がかかった。今後はLAKSをぜひ今後活用したい。
市民運動・NGOと核兵器廃絶	グループ作業においては、 熱心な学生と消極的な学生の差が大きい と感じた。内容及び発表の出来においてはグループでの評価となるので、熱心な学生としては不公平感が出てしまいかねない。グループ作業の評価の仕方について工夫がいる感じた。
環境思想	学としての思想・哲学の意味・意義がよくわかっていない1年生に、思想学・思想史学の授業において、どのようにALを実践したらよいか、今後も摸索が続くでしょう。
核軍縮の法と政治	学生自身が、アクティブラーニングの導入に反対し、 従来型の講義を強く希望する という反応はあまり想定していなかった。今後どう対処するか、検討したい。

75